

おはようございます。登壇の許可をいただきましたので、ただいまより山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。議会傍聴、朝忙しい中、ありがとうございます。

今回、農業政策についてから子育て支援の方向性について、庁舎問題について、観光行政について、武雄市図書館について、コミュニティFM局の開設についての6項目を用意しております。

早速、質問に入りたいと思います。

農業政策ですが、佐賀県は、基幹産業が農業ということで、武雄もそうですが、今回TPPの受け入れということで、佐賀県は300億の減収ということが見込まれています。ほかにも増収という形で200億円という——それでも、佐賀県にとっては減収というわけですが、市長におかれましては、これまで私の農業問題をいろんな形で言わせていただきましたが、本当に所得向上という形で、いろんな打ち出しをしていただいて、皆さんが元気の出る農業へという形で、武雄市も今のところ頑張っているんじゃないかなと思っております。

これからやっぺいこうという若者も、武雄市においては、未来の見えるというか、元気の出る農業になってきているんじゃないかなというふうに私は思っているのですが、今回のTPPを受け入れるということは、皆さんが不安に思っぺいらっしやることですね。

それに対して、いろんな対策をこれから安倍総理大臣も打ち出していくというふうにおっしやっています。やはり武雄市としてもこういう問題を受け入れて、これ以上に元気の出る農業ですね、所得向上という形で、今後武雄市の農業をTPP受け入れという形から、どのように考えておられるかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは5年ほど前からずっと申し上げていますがけれども、国の農業政策は根本的に間違っていると思います。ちゃんぽんになっています。

どういうことかと言うと、産業として農業を育成をするのか、あるいは、国土保全として農業を守るか、攻めと守りが一緒くたになっていて、全然、政策としては話にならないわけですね。

その中でJAは僕はよくやっているといます。国のあほさ加減に、よくお付き合いされているなと思うんですけども。TPPが入ってくると、なおさらその傾向は強くなります。したがって、強く攻める農業と、どうしてもやっぱり国土保全として、例えば災害が起きないように水田であったりとか、畑であったり、あれは国土保全の役割があるじゃないですか。私は、ここはどんどん補助金をつぎ込むべきだと思います。こっちのほうは。

しかし、打って出るほうですよ、TPPが想定している。これについては規制をできるだけ取っ外して、ここは後押しをするということにして、分けて考えるべきであって、今回

のTPPの最大の課題は、僕は、そこにあると思います。

TPP賛成とか反対って言うても、世の中変わっていきます。流れていきます。その中でよいタイミングで、どこにさおを差すかということなので、私はそういうふうにやっていきたいと思いますね。

ですので守るべき農業というのは、絶対に守んなきゃだめです。これは都会の人はわからないかもしれませんが、集落はすごい大事なんですね。これが壊れると家族も壊れ、例えば山内町、北方町、旧武雄市もそうですけど、全体が壊れてることになります。ですので集落をきちんと残すと。そこには一定の所得があって、そんな高くなくてもよいと思います。一定の所得があってね、ここにおったら、子どもも孫も帰ってくるもんねというようなものにしていく。

もう一方で、繰り返しになって恐縮なんですけれども、例えば後で御質問を賜れば答えますが、パクチーであるとか、レモングラスであるとか、トロピカルフルーツというのは、高付加価値の農産品として、出していく必要があるというふうに思っていますので。もう、TPP賛成とか、反対とかって言う次元の、紅白歌合戦のようなレベルじゃなくてね、TPPで、どういうふうに日本の農業を分けて考えるかというのを議会と真剣に議論をしていて、決まったことについては、最大限やっていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

農業の中でもですね、そういうふうに収益の部分、所得の部分で、はっきりと見えない部分というのが、やはりそういう政策にあると思うんですね。

多くの人は、うちのような山内町の中山間地とかは、本当に環境を守るんですね。今言われたように、環境保全とか、そういうことに、皆さん本当に御苦労されているわけですね。

後は、私たち、今までに味わったことのないような少子高齢化の社会っていうことで、農業者の人も、いくら貢献しようと言っても、きょうの新聞でしたか。66歳が平均年齢とか出てましたよね。若者たちができる農業をとか思っても、後継者の不足というのは、はっきりしていて、生産価値とかにおいても、何年、この田んぼがつくられていくのだろうか、という形であります。高齢になった方たちが、自分の田んぼをつくってもらえないだろうかというふうに、頼みに来られます。わずかな後継者の、大型機械とかを持った農業者が山内の西のほうでも、5、6人頑張っておりますが。

そのときに、武雄市が支援できるっていったら、今もやっておられますが、排水事業とかですね、所得を上げるための排水事業とか、いろいろあるんですが、そのやり方というところを改善していかないと、実際の農業者が安心してできるような農業にならないんじゃないかと、私は思うんですね。

私が産業経済常任委員長をしているときだって、その意見を一生懸命言ったんですが、今まではこれですから、今まではこれですからと言って、その補助事業を推進されましたが、やはり負担もあるので、それには達しなかったわけなんですよ。やりたいけれども、やる人ができなかったわけですが。部長さんが、違う部長さんになっておられますが。

そのことで、ちょっと言わせていただきます。排水事業を、旧山内町の依頼で、数年ぶりに事業が来ましたということで、皆さん期待していたんです。ところが、制限があって、暗渠のみということだったんですね。その内訳を聞いても、部長さんは、それ以上の事業を広げると、余りにも集まりすぎて、予算がこれだけしかありませんので、ちょっとそれは——これのみですということだったんですが。今、これだけ農業する人がなくなってですね、環境も変わってきました。イノシシで被害にあって、排水口が壊れたり、進入口が崩れたりとか、いろんな状況も出てきているわけなんですよ。

そういうのに対して、せっかくの補助事業が、武雄市に生かされなかったと私は思っているんですね、2年前の。武内、山内、若木ということで、皆さんに、どうぞ事業がありますということだったんですが、それをうまく生かすことができなかったんです。

だから、そういう事業を、その地域に合った補助事業となるように、今後考えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

議員さんおっしゃるとおり、確かに平坦部は農業用水も完備されて、圃場整備できますので、暗渠排水等、簡単に取り組みます。

しかし中山間につきましては、やっぱり、排水路も未整備で圃場も狭くて、なかなか取り組みないというのが実情で、これまでの国の補助についても、なかなか採択が受けられなかったというような状況であります。

そういう中で、たびたび、御要望あっておりますけれども、今のところはやっぱり、先ほどありました、市の単独事業といたしましては、通常の排水路の2分の1の補助等。後は、県の県単で行っています、せまちだおし事業。それが、中山間についてはですね、小規模な農業生産基盤整備ということで、現在取り組んでいますし、それ以外には御存じの通り、中山間地域直接支払ですね。これは耕作放棄地を防止するような形での、平地での農業生産の格差是正ということで、取り組まれていますけれども、今のところ、そういうことをやっております。

ただしかし、5月の国の成長戦略で、攻めの農業ということで、総理から発表がありまして、農産物については輸出の倍増、所得の倍増を10年でということで、確かに、この中身を見ますと、今のところ平坦部中心の政策みたいな感じで、なかなか中山間地に対しての気配

りとか、心配りがないような形で出されていますけれども、今後もう少し、中山間に目配りをしたような国の政策等が出てきたらですね、皆さんに紹介して、なるべく取り組んでいただければというふうに考えております。（「質問と答弁全く違う」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。（「全く違う」と呼ぶ者あり）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

一つ一つ、お尋ねしていけばいいんですが、やはりいつまでもですね、いやこれしかできませんと言うんじゃないで、他の自治体とかを聞いたらですね、側溝まで、水漏れがそこまですているんだったら、側溝までオーケーだったとかですね、排水口までオーケーだったとか。やっぱりその対応で、できている意見をよく聞くわけですね。

後、やはり、中山間地のようなところに、本当に後継者として数人の方がやっておられる人たちに、全部依頼が来るんですが、そのときにやっぱり大型機械が入らないですね。進入口のところは、やっぱり改善しないと、その田んぼは、受け入れられないわけですよ。そういうところまで、本当は考えていかないといけないような時代になっているわけです。

今までは、田んぼを持っている人が、そういうことをするのは責任だったんですが、今は、そうやって、後継者がいないから、使用権、利用権を設定して、なんとか、田んぼが維持されるように、耕作されているわけなんです、そのときにですね、やっぱり預ける地権者の人はもう高齢化しているし、わざわざですね、自分たちが圃場整備して、お願いしますなんては言わないですよ。

そしてつくっている人も、これだけ排水事業ばしたけんかかったですもんねということも言えないし、そこはお互いの話し合いで、何割何割で決めるべきじゃないですかとか、いろいろ話はあるかもしれませんが、やっぱり対策として、これだけ農業の環境が変わってきたら、やっぱり対応は考えていかないといけないと思います。

1つ言えるのは、山内のほうは、駐在員さん、区長さん達に、一斉にこういう話を持ってこられます。各農業者にそれを、どうぞ、こういう事業がありますからということで。

ところが今、区長さんたちも、農業に携わってない人たちは、これをうまく農業者に伝えることができなくて、ちゃんと末端まで伝わってないということがあったわけです。それと、農業者が直接こういう話を聞いたほうが、事業の内容がよくわかる。そして、これができるけど、これができないみたいなことができるから、今後は、直接に、そういう農業者を集めて、説明をしていただけないかっていう要望がありますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、やや違うと思います。というのも今まで武雄市の農業政策は、私が着任する前から、いろいろ聞いていたのは、広く浅くなんです。山内と北方は、ちょっと僕はよくわかりません。少なくとも、旧武雄市で聞いている限りだと、広く浅く。だから、この弊害として、どうしても、先ほどもありましたように、予算の限りがあって、どうしても中途半端にならざるを得ないと。

だから、今は、我々の予算の限りがありますので、広く深くというのは、無理なんです。ですので、重点地区を決めます。重点地区を決めた上で、これは補助金ですので、一定の費用対効果が出ないとだめなんです。ですので、そこに見合うものについては重点地区を決めて、広く浅くじゃなくて、もう狭く深くします。そうすることによって、そこに該当する地区については、とことん支援します。それぐらいやらないと、多分補助金の効果というのは、僕は出ないと思います。

ですので、今までは農業がある程度、右肩上がりとは言いませんけど、右肩そのままだったので、広く浅くで支援ということができたのですけれども、これだけ下向きになっているときは、確かに、そこは議員さんがおっしゃるとおりなんです。やっぱり、今までどおりではだめだということですので、私の案は、狭く深くやると。効果が出てきたらさらに広げていくということで、山口議員を初めとして、担当の委員会とよく相談していきたいと思えます。

ですので、私は説明会とかなんとかいっても、あまり意味がないと思うんですよ。だって、説明会に行ってね、行ったんだけど、それが取れなかったと言ったら、可哀想じゃないですか。それよりも、この地区は、補助金をきちんと投下して、効果が上がるだろうということ。あるいは、この補助金を使って、この地区は、どういう農業生産をするんだろうということがあって、話があると思います。まあ、お見合いみたいなものですかね。ですので、そういうふうに進めていきたいと思えます。農業版お結び課。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、やっぱり、熱く意思を持ってしている農業後継者の人たちが、いくら市の担当に一生懸命言っても伝わらないというのは、とても残念で、その補助事業が半分も使われなくて、次の繰越みたいな形というのは、本当に残念だと思うんです。その調整を、私はもっと深くするべきじゃないかということ、今回、挙げさせていただいたんです。

だって、1つの田んぼによってですね、これは50ミリの暗渠しか使えませんと言って、ここの田んぼは、とても排水が悪いから、それじゃ詰まってしまうだとか、ここの排水口までしないといけないんだとか、いろいろ条件が違うわけなんです。それを一方的に言われても、なかなか、皆さんが手を挙げて、20%負担にしても、何十万で使ってしようって思わ

ない事業になってしまうんじゃないかって私は思っているんです。そこの調整を、今後していかなければならないと思います。

今、ちょっと出たように、橘の田んぼだったら、橘は水につかりやすいし、そこの対策が要るし、北方は北方で、平野でありながら、何か問題があるかもしれないし、そこそこ武雄市の中でも、地区において条件が違うということで、そういう、きめ細かな対応というところを、今後していかないと、農業後継者というところでは、とても夢や希望を持てるような形じゃないんじゃないか、というふうに思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは、そうだと思いますよ。今までの農業政策っていうのは、全部否定するわけにはいかないんですけれども、例えば国の事業や県の事業、県単であるとか、あるいは補助事業であるとか、市の単独事業というのが入り乱れていて、その整合性っていうのは、ともすれば、なかったということは、これだけ縦割りで、農業政策って、やっぱり難しいじゃないですか。ですので、例えば、これは行政になるのか、JAさんのお力を借りなきゃいけないのかもしれないんですけれども、1人のコーディネーターが要ると思いますよね。

それが、北方だったら、橋下だったら橋下に合う農業、東川登だったら東川登に合う農業というふうにしないと、多分持たないと思います。ですので、そういう意味からすると、地区によって違うので、そこはやっぱり、きめ細かな指導があってよいというように、私も思います。

ただし、その中でも、ルールって、行政がやるわけだから、絶対判断を言われるんですよ。昨日もあったじゃないですか、図書館で。何で、2分の1減免するんだって。ああいうのがあって、すぐ、足を引っ張るようなことを言う人たちが、いるんですよ。ですので――

（発言する者あり）いや、平野議員さん、あなたのこと言ってないですよ。

ですので、そうじゃなくて――（発言する者あり）ちょっと、私語が――

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

ですので、そういう中からすると、一定の行政のルールがあるということについてはね、ぜひ――議員は御理解いただいていると思いますけど、それと、きめ細かなものを並立させるようにするというのは、我々も考え直す時期にあるだろう、というように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今、やはり、武雄市ができることで、農業者の人が元気になっていく、そういう改善をですね、どんどんよくなっていけばいいんじゃないかというふうな気持ちで、今回、出させていただきました。請け負ったら、2メートルも3メートルもある、土手の草払いがついてきたりですね、市道とか県道とかの草払いとかがセットになって、皆さん、農業者の人はやっておられるわけなんですよ。それでも、田んぼを守っていこうとか、高齢化でも「先代から預かった田んぼを荒らすわけにはいかん」とか言って、涙ながらに頼みに来られたらですよ、何とかしてあげようという形で、皆さん、農業をやっておられると思うんですね。そういうところを、汲んでいただきたいなというふうに、私は思います。

それでは、国が挙げた政策は、御存じかどうかわかりませんが、こういうことに対して、耕作放棄地がふえないために、5月28日に基盤整備をして担い手にということで、これは、安倍総理が、攻めの農林水産業を掲げる、安部内閣の成長戦略の目玉の1つということで、挙げられているんですね。

それが、農水省は、担い手に農地が集められるよう、都道府県単位の農地中間管理機構の設置を打ち出した。機構が出してから、引き受けた農地を基盤整備をした後、規模拡大を目指す担い手に貸し付けることが特色というふうになってるんです。

でも、こういう施策を、国は挙げてるわけです。これは、都道府県単位ということで、やっぱり後継者がいないことと、耕作放棄地をつくらないための政策ですが、これは10年かけてこういう政策、今後10年間で、担い手の農地利用が全農地の8割を占める状態にという目標を掲げられてるんですが、こういう形で国も挙げてますので、武雄市も、こういう状態に、数年なったら農地が荒れて、誰もする人がいないとなる前に、きめ細かな対策、そういう、やっている人たちが元気になるような補助事業とかになっていけばと思っておりますので、部長、答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

今、議員さんから御紹介がありました、農地中間管理機構については、私たちも新聞情報でしか、情報を得ていません。

今後、詳細が来るかと思えますけれども、とにかく、先ほど市長のほうからありましたように、重点的に地区を定めて、国の補助事業が取れば、それを優先して、だめだったら県の補助。どうしてもだめなときは、市の単独ということで、今後、取り組んでいきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

産業で農業を考えた場合には、基本的に補助金っていうのは、あり得ない話なんですよ。例えば、この前アップルが、また製品を出しましたけれど、吉川議員が使っておられる、マックブックプロだったりすると、これは全然、国の補助金なんかないわけですよ。創意工夫で、あらゆる困難を、あるいは、規制をはねのけてやっていると。そういうことだと思うんですよ、私は。儲かる農業というのは。

その一方で、どうしても、支えないきゃいけないっていうの、あるじゃないですか。ちょっと、お願いがあるんですけど、私は農業経営者が、山口裕子議員のような農業経営者がふえれば、変わってくると思うんですよ。なぜならば、農業に対する問題点とか課題を、ちゃんと届けるじゃないですか。でも今、多くの農業経営者と話していると、きつかきつか、と。何が問題ですか、と言っても、ようわからんという方々が多いんですよ。これは、厳然たる事実です。私も兼業農家なので、それはわかります。

何が問題点で、こうすれば、もっと儲かることができるということを、具体的に我々に教えてほしいんですよ。そうしないと、農水省とかに届かないんですよ、制度として。声が届かないということは、今までのままでいいんだ、ということになりますので、ぜひ、こういうことが問題だとか、課題だということを、個別具体的に、私どもに、特に営業部はエースを揃えていますので、ね。――違っただけです。ですので、そういうことで、進めていきたいなと思います。

そして、話し合いながら、解決できるところは解決をしていくのが、樋渡市政だと思っていますので、ぜひ、そういう意味でのお力添えを、お願いをしたいと思います。

山口裕子議員さんは、そういう意味では農業のジャンヌダルクだというふうに、思っています。ジャンヌダルクには、会ったことはありません。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

国も県も、農業後継者をということで、本当に力を入れていますが、それに反して、なかなか未来を担う農業者はふえていっていませんので、やはり、どこが問題なのかということ、できるところは改善して、今の状況に合った対策をですよ、対応をしていってほしいなというふうに思っています。

では、次の子育て支援の方向性について、お尋ねします。

今回ですね、子育て総合支援センターのセンター長さんも変わられまして、吉牟田先生とおっしゃいますが、いろんな面で保育士さんの養成だったり、いろんな活動をされている方がセンター長さんになりました。以前もですね、センター長さんは、市役所のほうからでしたが、とてもよい活動をしていただいて、子育て中のお母さんたちには、大変喜ばれておりました。

また、来館者数もですね、当初年間で1万640人だったところが、今ですね、24年度で1万5,524人とふえております。総合子どもセンターって言ったら、保育園にやってない子どもさんと親御さんが、そこに集ってと思ってたんですが、保育園のほうの0歳児保育園もふえてますが、やはり、ここのセンターにですね、通われている方も、多くなっているようです。

また、私が常々言っておりました、学童の、学校を終わってからの子どもたちの支援。学童でも調べさせていただいたら、やはり学童の数もふえているようでございます。それは、国の政策でもありますが、女性たちが隠れた人材というか、そういう女性たちの力を社会に、ということで、女性も働く時代がやってきてますので、子どもの支援を行政は求められてるんじゃないかと思っておりますので、そういうことを含めて、今後、武雄市は、どういう形で支援を強めていかれるような対策を練っておられるか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

ただいま、子育て総合支援センターのセンター長が、民間から起用されたということで、御紹介いただきまして、ありがとうございます。

まず、子育て支援センターの今までの経緯と、子育て支援センターで、どういう方向性で今後、民間のセンター長を起用して、進めていこうかと思っているかということから、お話をさせていただければ、というふうに思います。

子育て支援センターは、平成19年5月に開設をいたしておりまして、主に親子の交流の場、未就学児を中心としました相談業務、また、情報提供を行ってきております。また、子育てに関する講座や子育てサポーターの要請などを行ってきておりました、外へもどんどん出て行っているという状況もございました。

これまでは、子育て総合支援センターが、市内唯一の子育て支援の拠点となっておりましたけども、今後は、ますます、地域での子育て力を高めるということもありますし、地域に子育ての支援の拠点をつくっていききたいと。親子の見守りの支援や、交流の場づくりをしていききたいというふうに思っております。また、子育てサポーター、また、母子推進員さんなどの子育て支援者のネットワークづくり等も進めていききたい。そして、子育て支援の拠点となり得る保育園でありますとか、幼稚園などにも、どんどん働きかけをしていききたい、というふうに思っております。

先ほど、吉牟田センター長のお話が出ましたので、少し、吉牟田センター長の御紹介もさせていただきたいと、ちょっと思いますけれども。

〔市長「いや、それ、違うろうもん。だって、質問に答ゆっぎよかさ、質問に。」〕

〔4番「いいです。」〕

はい、失礼しました。

センター長の豊富な経験を活かしていきたいと、そういう活動を、人材育成を含めて、していきたいというふうに思っております。

それから、学童保育もふえていると、確かに、そういうことでございます。学童保育につきましては、平成27年度、国の方針が出ておりまして、ますます拡大をしていくということも、出ておりますので、その充実も図っていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろんな見方があるからですね、子育て支援というところも、今までは、最低、家族というか親が責任を持って、放課後、家に帰って家庭で過ごすというのが本当の形だったんですが、今はすでに50%近くの子が、学童に残って過ごしているわけです。

朝日小学校のときにも、ちょっと問題を挙げたんですが、本当にぎゅうぎゅう詰めのところ、少ない支援員さんが、管理された学校が終わった後に、子ども達も、のびのびと過ごしたいだろうに、やっぱり管理せざるを得ないような環境でいたから、状況、いろんな改善をしないといけないんじゃないかなという問題点も、挙げさせてもらってました。

親のほうから見たら、6時から7時、保育園だって、そこまで保育があって、何で小学校になったら、こういう形になるかという問題も、お母さんたちが挙げて、もっと働きやすいようにという意見もありましたが、子どもの状況を見たら、子どもたちは、やっぱり家に帰りたい、とても、そこで窮屈な状態が続いているとかですね。そういう状況を、やはり行政として学童を、こうやって受け入れるならば、その状態を改善しないとですね、子どもたちにも、かなりの負担がかかったまま、そこで過ごすんじゃないかなというふうに、私は思っております。

1つ、いろんなお母さんたちから聞くのは、4年生、5年生、6年生と預かってもらったら助かりますって。お姉ちゃんとか、お兄ちゃんの場合ですね。それと、地域に誰もつながりがなくて、4年になって突然家に一人でいるとか、そう過ごすのが、不安だとか、そういう声も上がっております。

後、もちろん、私たち、前は6時から7時というのは、サポーター制度を使って、それを補助してやってみたらどうかということで、言っておりますが、その時間延長というところも、市は、どう考えていくかというのと、後、50%の人が学童に残ったら、やっぱり家に帰った子どもは、学童の子と遊びたいと言うらしいんですよ。そうしたら、それに満たないと学童には入れないので、遊べないという問題があるというのと、おじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃるから、学童に入れなくて、おじいちゃんが見てて、おじいちゃんがもう孫の面倒見きらんけん、2,000円やるけん、入ってくれろって言うおうちもあつたらしくっ

て。そういう対応をですよ、どんな形で学童というところを、市が助成していく、支援していくのかなというのを、ちょっとお尋ねしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

先ほど、27年からはございますけども、対象の範囲が広がるということもあります、ということをお紹介いたしました。ただいま、現在の放課後子どもプラン推進事業の対象では、利用者が、先ほどおっしゃいましたように、保護者が就労により、昼間不在であることを条件とする家庭の児童というふうになっておりまして、そういう制限がございますので、対象外の児童については、放課後児童クラブでの受け入れというのが、できない状態がございます。そういう中で、放課後児童クラブだけではなく、放課後児童教室、放課後子ども教室とか、地域子どもクラブ等の活動。そういった活動をですね、盛んになるように応援をしながら、そういったところのカバーができれば、というふうにも思っております。

また、時間延長につきましては、まだ、時間延長ができるかというところまでの状況までは、進んでおりませんが、そういったことも課題にあるということは、認識をしておりますので、そういったところも今からどんどん協議と言いますか、検討していく必要があるかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長さん優しいので、結構やわらかくおっしゃったんですけど、僕はハードに言います。時間延長とか、例外を認めると、どんどん、行政の肥大化なんですよ。

例えば10年ほど前に学童があったかということ、なかったんですよ。あった。では20年前にしましょう。あったらすいません。その時にはなかったわけですよ。なかったのがどんどんどんどんふえてきて、今は全小学校にあって、しかも場合によっては、6年生までプラスアルファでやっているところも例外的にいいんですよ、知っています。でもね、それをどんどんやっていくと、初期の目的からかなりずれているところも、僕も結構小学校まわりますので、見受けられる。やっぱり、一定の歯止めというのが必要だと思うんです。ですので私は時間延長は基本的に反対です。しかも例外もあんまりつからないほうがいいです。

そうすると、あの子が入ってこの子が入らないとか、おじいちゃんが2,000円あげたらね、うちのおばあちゃんがなんとかとなるに決まっているんですよ。ですので、それはどうかなと思っておりますので、いったんその、あり方そのものをもう一回ちゃんと見直すと。どうしても学童でできない部分というのを先ほど部長からあったように、じゃあどの部分でカバーできますということをしないと、かなり肥大化する。これね、肥大化がいいことだって思う方

もいらっしゃると思うんですけど、これ、どうやって運営されてるかという、市民の皆さんの税金なんです。

ですので、限られた税金を、学童保育は必要だと思っけていますけれども、さらにプラスアルファで出していくのがいいのか、他の福祉、子育てで使うのがいいのかというのは、議会のみならず、市民の皆さんのやっぱり議論が僕は必要だと思います。そして、市民の皆さん、あるいは議会の皆さんが延長すべきだとか、あるいは一定の例外を認めるべきとなったときに、そこで政策として打ち出すというふうなプロセスをたどらないとこれはいけない問題かなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やっぱり、今後行政がどのような方向で支援していくかというのを定めないといけないと私も思います。

〔市長「うん、それはそうだね」〕

武雄小学校が新しく新校舎が用意されていますが、やはり今までだったら空き教室を使って学童が行われていたんですね。ところが新校舎になるとありません、それは含まれておりませんね。じゃあ、今後どこで学童をされようとするんですかという、やはり朝日のときにパンク状態だった、今度、体育館の改築がありますね、体育館のコミュニティの部屋を、そこをいかがなと思っけておりますというふうな。そういう同じ繰り返しというか、武雄小学校も66人ですね、それに入会手続きする方がいらっしゃるわけであって、今もプレハブで学童が行われている方がいるんですが、それをまた体育館のコミュニティの部屋ですというのは、今後これだけふえてですよ、その環境づくりをしないといけないというときにですよ、やはり考えなければいけないんじゃないかなというふうに私は思っけて、今後の方向性をきちんとしていただきたいと思っけて質問にあげさせていただきます。

また、やっぱり地域で子育てをとということで、とてもいい武雄市ですね、よりみちステーションぼちぼちや、ということで、地域の方の御協力とか、いろんな形の支援を受けて、まだ週1回ですが、子どもたちが寄る場所を運営している方がいらっしゃいます。

一応、モニターすいません。（モニター使用）これはですね、永島公民館の館長さんがですね、いいですよということで、週1回水曜日です。学校が終わったらですね、ここに寄ってくるんですね。中学生がみえるのは、ボランティアというか、帰宅の人たちがここに寄って帰って、いろいろ楽しんで帰って、一緒に子どもたちと遊んだり、勉強したりとかですね。ここには100円くらいのこづかいをもって来るんですが、そこで10円とかですね、駄菓子っぽいのが用意されていて、それを自分で選んで食べたりできるような。ここは永島自治公民館ですね。ここでゆるい感じの中で、子どもたちがのびのびとですね、異年齢で遊んでいる

わけです。そしたらいろんな形で高校生とか、ちょっと寄ってみたりとか、保育園児のお母さんたちが寄ってみたりだとか、こういう形で、よりみちステーションぼちぼちやという形で、子どもたちが過ごしています。

こういうふうにやっぱり子どもたちはいったん帰ってですね、地域で元気に遊ぶというかな、そういうことをやっているというか、こういうのが望ましいんじゃないかなと私は思っていて、方向性として、こういうところの支援ですね。自治公民館とか活用できたらですよ、いろんなNPOとか、そういうNPOまで持たなくても意思のある方がですよ、子どもたちの集まる場、寄り道する場というか、こういう子育てでみんなで過ごすことができたらいんじゃないかというふうに思っていますが、市長はどのようにお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私まだここに伺ったことがないんですけども、これ山口裕子議員さんが用意された映像を見てもね、こういう多世代の交流だったりとか、しかもこれすごい家庭的な雰囲気伝わってくるんですね。これ、中学生の子が、武雄中学校だと思んですけども、小っちゃな子をひざに上げたりとか、すごくフェースツーフェースどころかスキンシップが図れていますので、こういう空間をもっと我々は持つべきだと思っていますので、これについては最大限応援していきたいなというのを、質問を拝聴しながら思った次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。ここがですねお母さんたちが全部働いているわけでもないし、子育てで子どもと一緒に過ごしてるお母さんたちもここに寄ったりとかですね、会費も決められてですよ、運営を今されてっております。こういう地域の力っていうか、そういうところが、活動しやすいというか、受け入れていただけるような流れをですね、武雄市も持っていれば、私も嬉しいかなと思います。

ここは本当に永島の公民館の館長さんとか、永島の方がですね、すごい協力をしてくださってるってということで、ありがたいことだなというふうに思っております。モニターいいです。子育て支援の方向性の中でですね、そういう話を聞く中で、新しいセンター長さんが、抱っこボランティアという形で、市役所のキッズステーションを軸として、抱っこボランティアを始められました。子育て中の人にとってはですね、時間のかかる相談とかに行く場合は、とても私たちはありがたいという声を聞いております。

そんな中ですね、もう1つこれができるいいんですけどということで、議会傍聴をする場合は、子ども連れはだめなんですよ。はなから私たちは行けないもんね、子育て中の人

も、どんな議員さんがおられるか、どういうところか見てみたいけど、入れないもんね、ということで。私たち、堺市のですね行政視察に行ったときに、そこは新しい円形議場だったんですが、ガラス張りのですね親子室という観覧席ができてたんですね。そこは、しゃべりながら子どもと一緒に観覧できる、議会を傍聴する部屋になってたんですが、できれば、きつずステーションを軸にして、抱っこボランティアができたんだったら、こういうときにちょっと登録すれば、この時間帯、そこで見ていただけますよみたいな感じで、子育て中のお母さん達も傍聴できる、というふうに広げていけないかとお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

先ほどきつずステーションの要請手続きに来られた方を対象に、毎週火曜日と木曜日の10時から12時までという限定の時間ですが、抱っこボランティアという形で、5月の後半からスタートしています。その中で、今まで現在3名の利用があるところではございますが、サポーターと言いますか、人材の確保がそれ以上まだできない状態にございます。ただいま議員さんからございました、議会のときの傍聴ということになりますと、まだ1つは、市役所に来られた、子ども連れの方の休憩の場所であったり交流の場所というところの活用がメインでございますし、まだその体制が整っていないということもございますので、託児所的な利用というのは、今のところまだ難しいかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

とても抱っこボランティアとかですね、いいことだなというふうに思って、そこから展開して、できないというよりは、どれくらいそれをしたからといってどれくらいの方が、傍聴に来られるかわからないけど、できないということよりも、こうやってできますよというふうに打ち出すことができたかなということで意見をあげさせていただきました。

次の庁舎問題に移ります。庁舎問題で、市民の方からいろんな意見をいただいているながら、庁舎自体が古いし、新しい庁舎になったときに、いいんじゃないかなというふうに思って、いろいろ意見があがっていて、私もそのままにしていたものなんです。4階のですね、教育委員会のお部屋がありますが、あそこがとても入りづらいのと——、わからなくてよく何階にありますかとよく聞かれることはありますが、とても入りにくいということで。

新しい庁舎になったら、きれいにガラス張りというかそういうふうになるかもしれないね、などと言っていたけど、雰囲気、子どもたちのことを抱えるところが、あんなふうの中が見えないで何をしているかわからないようなところよりも、早く、あと庁舎が——

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

言葉にちょっと注意して、そこは。

○4番（山口裕子君）（続）

すみません。何しているかじゃなくてですよ、どんなところかわからないで来られるので、不安なんですよ、ここでいいかなと。ノックもできない感じだと、そうふうにいわれるからですね。私は子どもの未来課とか、支援課ですかね、こども部のところが、前は張り紙だらけで、中が見えなかったんですが、あれはきれいにですよ、真ん中がガラスがくもりになって、中が見えて、子どものことでいろんな手続きに来られるときは、とても入りやすいなというふうに思ったので。

じゃあちょっと、いくらあと何年かのことで、どこの行政スタッフが、行っても、そういうところはないし、改善ができれば、予算もあるけど、ちょっとお尋ねしてみようねとことで。できれば議会事務局もオープンになってたほうが、とてもいい感じというか、いい雰囲気というか、そういう意見をいただきましたので、市長はどのようにお考えかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

オープンに越したことはないと思います。実はこども部の2階のところを外せといったのは僕なんです。全部外せと。しかもガラス張りですごくいいな、と思ったら目隠しが入っていてすごい残念です。行政というのは、そうなんだなと思っています、実は。最高責任者は僕なので、おそらく全て僕の責任なんですけれども、僕はやっぱりあれもないほうがいいと思うんですよ。あれがあると、隠したいものがあると思うじゃないですか。わざわざ予算を付けて、なんであそこにくもりをいれるんだと。くもりは、天気だけで十分です。4階の例えば、議会事務局であった場合やあるいは、教育委員会で確かにね、入りやすいというふうにしたほうがいいと思うんですけど、ただし、考えてみるとこれも費用対効果なんですよ。一般の方が少なくとも市民の方が、4階の教育委員会まで来るのはなかなか想定しないし、議会事務局に来るのは、僕くらい、だから、議会事務局と言うんですけど。それを、予算を例えば五、六千万かけてガラスにすると、はたしてそれは市民合意が取れるか非常に心配しています。

もう1つは、空調の問題があります。全部とっばらう、あるいは一部をとっばらうことになると、それはさすがに、先ほども言ったように余計な光熱費がかかりますので。庁舎、急ぎますので、ぜひ山口裕子議員さんを始めとして、議員さんの意見を取り入れて、ガラス張りどころか、僕は窓口をつくらないと言っているの、誰があそこで仕事をされる。教育委員会も議会事務局も一生懸命仕事しています。それが市民の皆さんに分かるように、庁舎建

設については、最初から、そういう空間にしていきたいというように思っています。ちょっとやりたいのはやまやまですが、かかる費用からするとどうなのかなってというのが、正直な私の見解です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

モニターを用意してください、すみません。（モニター使用）ここが教育委員会になって、今暑いから……こんなふうになっているわけです。ここが私はこういうふうになって、市長がですよ、このところにつけなくてよかったと言われるけど。少しはですね、働いている人もあれかなと思って。こういうふうになると、雰囲気は全然変わるし、4階、教育委員会に訪れる人はどれくらいって言うより、行政視察にたくさんの方が4階に登ってこられるのというのと、あとこうやって議会傍聴にも以前よりもたくさんの方がお訪ねいただいて、そういう雰囲気というか、ここが教育委員会とか見えたほうがこんなふうな、とても感じがいいし、開かれた感じがするんですよね。私も早くからそれを言われてて、今挙げるのも新庁舎に向かっているのにですね、あと数年かかるので、こんなふうにすると雰囲気がとても変わると思います。何千万とかかるのであれば、私も要望しませんけど、そういう形で挙げさせていただきました。モニターいいです。

あとは、庁舎問題は新しい庁舎ではなく、今の庁舎問題で、挙げさせてもらっています。新庁舎になるとワンストップということで、総合案内とかすばらしいものがみんなで用意していくものだと思いますが、今ですね、できることができたら、より快適になると思い、挙げさせていただきました。市民課とか公民館とか、福祉課とか来庁者の多いところの対応を、やっぱりいいところもすばらしく丁寧に対応していただく方もいらっしゃいますが、人との対応が苦手な職員さんとかがよく指摘を受けて、なんであそこの人はああいう対応しかできないのとなった場合に、市としては誰でもそういう人と相對するのが苦手な人はそこを違うところの職場にですよ、対応がとても得意な人が、スペシャリストじゃないですけど、そういう人がそこに配置されるとスムーズに行くんじゃないかなと思います。特に、公民館とか、市民課もそういう形で、対応スムーズに行ってるんじゃないかと思います。あとは相談の多い福祉課とかですね。そういうところに配置の仕方を、今もそうされているかもしれませんが、何回も対応がという意見があったので、そういう配置の仕方をどうお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

心外ですね。私、そういう職員、少なくとも私のところには――、たまに言い方がきつかったりはありますが、ずっとというのは僕は聞いたことないです。職員、物すごい一生懸命

やっけて、僕の要求もすごく高いので。それがあつたら個別具体的に教えてほしいとは思っています。

一方で、樋渡市政においては、やっぱり事務より人と対応するというのが絶対の必要条件なんです。苦手であっても克服できます。私がそうですから。内気そのものですよ本当に、出不精そのもの。しかも対人的には、今も上手くいってないところもありますが。なかなかできないところを、やっぱり諸先輩方にいろいろ教えていただいて、かなりのところ、克服できたと思います。それはトレーニングの問題だと思つんです。ですので、やはり公務員、特に基礎自治体の公務員は、対人関係が第1。第2に、私は事務作業だと思つています。人柄も含め、それは僕は大事だと思つていて、来年度から、うちは人柄採用をすることに決めます。うちのような基礎自治体の役所というのは、頭がよくて性格がいい人は来ません。頭がよくて性格が悪い。頭が悪くて性格がいい。頭が悪くて性格が悪い。人間4つに分かれるとするじゃないですか。上の、頭がよくて性格がいい、つていうのは来ないんです。だとすると、2、3番目の頭が悪くても人柄がいい人を選ぼうということをおもいます。うちの職員の中にも人柄系がいます。

例えば、去年辞めた石橋幸治であるとか、上田哲也、菰田康彦であるとかいますので、そういう職員が来ると、みんながこの子を手助けしようとなるんです。市民の皆さんも含め。そういうふうに切り替えていこうと思つているので、来年度以降はね。今もみんな人柄いいですよ。そういうふうになつていけばいいなと思つてます。僕は、できないから違つとこにするとなつと、その人がだめだという烙印を押される気がするんです。まずやってみて、それでいろんな問題点や課題があれば、できる方向に僕らを変えていくのが大事だと思つています。それでも人間、できること、できないことがあります。そういうときには、私とすれば、市民の価値が第一だと思つていますので、そのときは配置転換も最後の手段としてはあるのかなと思つています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

〔市長「人柄採用にします」〕

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

全てとかそういう形ではないんですよ。そういう意見が届けられて、それが続いたので、そういう選択もあるんじゃないかなと思つて挙げてさせていただいたんです。

あと私の提案は、今お客さんが多いし、市民の皆様が用があつていかれる場合もありますが、そこの来庁者として入り口に立つたとき、職員の方が顔を見合わせるんじゃないかと、お客さんが来られたら必ず一番に立つ人。今日は御用何でしょうかつていうか、それをやっていただきたいなと思つています。顔を見合わせて、こうされている場合が多いので、そこに立たれたら、一番に立つ人がいて、その人がいなかったら2番に御用を聞く、という人がいると

いうふうに。総合案内がないんですから、そんな対応ができると、スムーズに行くんじゃないかというふうに提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは僕が答えたほうがいいでしょう。これなかなか難しいんですよ。それを担っているのは私なんです。私は基本的に市長室にはもういません、今。誰がいるかという、副市長がいます。こんな顔して。私は3階に、もちろん会議や打ち合わせがないときですよ。そこにお越しいただいた方が、どこやろか、と見るわけですよ。そのとき、少なくとも私は360度のことは浅く広く知ってますので、それならこの窓口案内しますと。

どうしても私を目当てにお越しいただく特異な方がいるので、その方には職員に引き継ぎます。あっちの方が、健康課に御案内してくださいというふうにしますので、これって結構技術が要るんですよ。ですので、議員の御指摘を踏まえて思ったのは、そういうトレーニングをした何人かの職員、OBでもいいと思います。そこ、知っている人がいたら、どこって聞けるじゃないですか。それと、これこそ議員さんをお願いしたいです。ぜひ3階にいてください。そうすると、これはこっちよ、とか、これあっちよ、とか御案内していただけますので、一般質問が終わったら3階に移動していただければありがたいと思っているのと同時に、もう一つ今思っているのは、研修でこれ、使おうかなと思って。今、研修っていうふうなのを貼って、例えば3階の市民課のフロアにいるとするじゃないですか。そうすると、例えばまごついておられる方に対して、今どういう御用でしょうかというふうにして、これならここに案内します、というふうにするんです。

うち、失敗しているなと思っているのが、例えば新人研修とかがほとんど座学なんです。でも、座学で済むのはほとんどないですよ。議員のみなさんたちおわかりですよ。やっぱり人とお話をして、解決をしていくっていうので、研修の項目に盛り込むというふうに人事に指示をしたいと思います。それをすることにより、この市役所は市民に近いんだ、と。研修というふうにしてると、そんなに期待してないですよ。見習いとかね、していると期待しないと思いますので、そういう暖かい配慮をしていきたいと思います。

これが本格化するのには物すごいトレーニングがいります。それは平行して進めてまいりたい、このように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。やはり、これだけお客様が多い中、職員の方も大変だろうと思うので、スムーズに対応というか、気持ちよく対応ができる形を進めていってほしいなと思

ます。市民の方も、しょっちゅう、しょっちゅう行く人はそうでもないですが、初めて行く人は結構手続きで、新年度で初めてとかそういう人たちは、やはりそういう問題を私のところに言われるわけですね。だから、そういうところも含めて対応していただけたら、ありがたいです。

次の観光行政について、いきたいと思います。これも市民の方の声があまりにもあちこち聞かれたものですから、挙げさせていただきました。大変お客さんがふえています。ゴールデンウィークも図書館と重なってすごく多かったみたいで。武雄市病院も、市外からもたくさんの患者さんが訪れてらっしゃるようですし、飛龍窯のときもお客さんが市外から多かったです。物産祭りもそうです。オルレの事業でも、韓国からお客さんたくさんです。図書館で今もまだまだ賑わっています。ということは、本当に訪れては周りの観光とか、いろいろなところ、武雄市を訪れてらっしゃるんですが、やはりいい声ばかりじゃなくて、そこに行ってもとても残念だったとか、対応ががっかりしたとか、そういう話が届いてきております。ゴールデンウィークは本当に多かったから、対応がうまくいかなかったと思うんですが、やっぱり市内の旅館組合とかいろいろ商工業界とか、ですね、急激にこのようにお客さんがふえると、対応が大変じゃないかと思しますので、市としても支援というか、連携をきちんと取らないと、こういう訪れても、観光に来て、ああ、もう、ようなかったとか、そう言われると、私もちょっと、あら、そうねと、何とも言えないようなことが2、3件ありましたので、ぜひとも連携を取ってやってほしいと思いますが、今の市としてはどういう形でやっておられるかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

おっしゃるように、特に忙しい時期、お客さんが多い時期は、そういう観光施設、あるいは宿泊施設の対応いかんによっては観光協会あるいは市のほうへ直接クレームが参ります。その際はすぐ現場の状況を把握して、本当はクレーム内容も、クレーマーのような人もいますので、本当かどうかの事実を確認し、必要に応じて施設にはっきりお願いするし、その情報は併せて観光業界へも伝えて、なるべく同じ情報を共有するようにつとめております。あとは、常々いろんな総会とか会合等がありますので、そういう観光関連の施設につきましては、常にもてなしの心を持っていただくということをお願いは続けているところです。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

せっかくですね、市長が頑張っていたら、たくさんの方が武雄を訪れていらっしゃるのに、ちょっとしたことで、とてもイメージが悪くなって、もう二度と来ないみたいなこと

を言われると私も、それはね、と悲しい思いになりますし、それが続くと、大きくなっていくと、とてもあとで取り返しがつかないかなと思って。そういったところを、こまめに連携をして、いいおもてなしができるように。私たち議員もそうですが、やっぱりまちなかで困っていらっしゃる方がいたらお声かけをしたりとか、そういう形で観光者が多くなると、おもてなしというところで、十分、注意を配慮しないといけないと思いました。

あと英語っていうのは、意外と皆さん、共通語だからか——私はしゃべれませんが、意外としゃべれる人も多くなってきたんですが、やはり韓国語、韓国のお客様が今ふえてますので、韓国語で困ったときは、あそこに行けば話せる人がいらっしゃいますとかというように。前はいらっしゃったと思うんですよね。駅のお店か何かに1人いらっしゃったと聞いていたんですが。

そういうふうに、韓国語は誰か土日とか、自分たちもオルレコースに歩きたいとか思ってるし、そういう人に出会ったときに、困ってらっしゃったら、ここに聞いたら話が通じるとか、そういうことを準備されているかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

以前、観光課とか、観光案内所は、多分中国語ができる方だったと思います。2人ほど緊急雇用をお願いして雇った方がおられました。今の観光課の体制といいますと、英語が話せる人、それと韓国語は話せる人がいますので、そういうところでは、海外の韓国語の方とか、英語の方については対応いたしております。それ以外にあと商工会議所などで、今、韓国語講座をされておまして、その関係者の方が2人ほど、話せる人がいらっしゃいますので、オルレの歩く方についてはですね、連絡先を明記したり、その形で連絡とか相談ができるような体制を取り始めております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やっぱり私も韓国に行って、ハングル語というのは、読みもできないし、意思疎通が全くできないなど。相手の方が英語もしゃべれなかったら、本当にコミュニケーションが難しかった経験があるので、これだけたくさんの韓国の方がお見えになったら、リーフレットやどこにでもですよ、困られたときは、ここにお尋ねすれば韓国語ができる方がいらっしゃる、というふうに、わかればいいですよ。観光課におられます、といっても、土日そうやって——観光しているときとか、オルレをまわっているときに、困ってらっしゃるのがわからないときに、そこに電話したり、話してもらったりというふうにできたら一番いいのかなと思います。これからということですので、これだけのお客さん来てらっしゃるから、やっぱり

そういうのが、早急にですね、していただけたら嬉しいと思っていますが、市長はどのようにお考えですか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、韓国人や中国人の方とか、やっぱり外国人の方が一番多いのは、見ていると土日なんでですね。ですのでこれは、平日の対応と、土日の対応というのを、分けて考えるときがきつと来ると思いますので。例えば、土日公務員、平日公務員。政治家、我々は365日じゃないですか。ですので、そういう新たな形態のね、週末公務員というんですか。字はちゃんとあれですよ、ウィークエンドですからね。ですから、そういう新たな形態をしないと、今の平日を中心とした公務員で対応するっていうのは厳しいと思いますので、やっぱり公務員じゃなくてもいいかもしれないですよ。例えば観光協会に、土日を中心とする方を雇うであるとか、それをちょっと考えてみたいと思います。今、勤務の要望というのが物すごく多様化しています。だから、平日は休んで、土日に仕事をしたい、という方も少なくとも私のまわりにはいらっしやいます。例えば主婦の方とか、平日は家事で大変だけど、週末空いているときに、自分の力を発揮したいという方がいらっしやいますしね。

ですので、それは、我々のほうで引き取らせてもらって、観光協会とも話をする必要があるだろうなと思っています。もう今かなり、おっしゃる通り、ふえてますので、その対応というのは、しっかり考える必要があるだろうと。おそらく、オルレを今全面に打ち出していますけれども、これを土日の対応をしない限りやっぱりもうふえないですよ。それもしっかり考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、今必要なことだと思うんですね。早くそれを整えたほうが私は、オルレの対策としては、早急に必要じゃないかというふうに思います。また、後は市内の観光協会とか、商工会とかですね、そういうところの連携をして、さらにいいおもてなしができるように、と思っておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、5番目、武雄市図書館についてお尋ねいたします。いろいろ、図書館に対しては意見が出ておりますが、私のところには、ほとんどの人が大変喜ばれて、もっと時間を伸ばしてほしいとか、いろんな形で喜びの声の方が多いですが、ここでいちいちそれを言うよりは、ちょっと問題があるとか、これはどうにかならないか、ということの声もあがっておりますので、それを前向きに考えていただきたいなというふうに思っておりますので、質問させていただきます。

なんか心配されているんですね。前の図書館の職員はどうなされたんですかって。新しい職員さんばかり、東京のほうですか。そのように、皆さんはそっちで決まったような感じで、よくこういうことも質問されます。それと、前の職員さんはですね、どうなされたんですか、みんな退職されたんですか、どこに行かれたんですか、みたいなことを言われます。

それと、コンシェルジュというのはイコール司書なんですかと。司書さんはきちんといらっしやいますか、何人いらっしやるんですか、っていうのもよく質問にあります。まず、ちょっとそこら辺からお訪ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

旧来の、図書館・歴史資料館には15名の司書が勤務いたしておりまして、そのうち13名が新しい図書館で勤務をいたしております。これはもちろん司書業務を中心に仕事をいただいているということでございまして、残る2名につきましては、1人は歴史資料系のほうで仕事をしてもらっています。それから、もう1人は文化学習課のほうで仕事をもらっておりますので、15名がそのままですね、図書館に関わる業務をそのまま続けているという状況でございます。（発言する者あり）

申し訳ございません。コンシェルジュは司書か、というお尋ねでございますけれども、呼び方はコンシェルジュということで、手厚くですね、おもてなしをする、ということを中心にしておりまして、従来の支援につきましては、貸し出し業務というものも、かなり業務の中では中心的なものをしてきたわけですが、今回は、そういったものは機械化もしているわけですので、おもてなしをすると、いうところで、そういった本来の司書業務を中心にやっただけで、というふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

はい。一応私は説明を聞いたとき、一応コンシェルジュという方たちは司書——を——ちゃんとお持ちですよ、みたいなふうに説明を受けておりましたが、そういうことですね。で、そういう中で、市民の声がですね、あったときに、ちゃんと図書館には声が届くんですか、ということ言われます。1つは、やはりこれだけ今まで行かなかった人、もうすごくいいことですね。図書館に遠ざかっていた人が図書館に行きます。そして自分の読みたいものは、いろんな人が来るから、ないなあ、といったときに、リクエストコーナーというのが大体図書館には備えられているんですね。そしてそれが1カ月とかにたまったときに、たまったというかそう集まったときに選定委員会とかを開いて、この図書は、購入できるとか、これはちょっと高額すぎて、とかそういう形でリクエストコーナーがきちんとあったんです

よね。だからそういう対応もできているのでしょうか、ということを質問されていますが、どうでしょうか。ありますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

リクエストについては、受けております。これはリクエストをしていただいて、その本が蔵書としてあるのかどうなのか、ということをもまず調べます。調べて、もしあって、貸出をされているというような場合には、予約ということで予約をしていただきますし、もしない場合は、他の図書館との相互貸借ということもございますので、この辺も調べていくと。それから購入ということになりますと、選定委員会にまわって検討すると、いう形になっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁のままでいいんですけど、補足をしたいと思うんです。リクエストについては、市民のリクエスト、武雄市民のリクエストだけに応えようと思います。

やっぱりふらっと例えばやってきてね、リクエストをして、ということと、武雄市民というのを一緒にするっていうのは、多分これは、武雄市民としてもこれはいかななものかと思えますので、このリクエストに関しては、武雄市民が絶対優先、というか 100%優先にします。

その一方で、先ほど、選定委員会という話がありましたけれども、私は市民の御要望は可能な限り応えたいと思っています。ただし、今までだったらね、漫画が多いですよ、やっぱ。これはさすがに、部長が申し上げたように、選定委員会というようにフィルターを――漫画が全部悪いと言っているわけではないですよ。比率が高いので。そこは選定委員会で少しフィルターをかける必要があるだろうと思っていますので。あくまでも市民価値第一になります。こうやってリクエストをいただくこと自体、本当に嬉しく思ってますし、なかなか、図書館に来づらいという方々に対しては、メール等、でも対応していますので、ぜひこういう機能も積極的に活用していただければ、ありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

CCCの方もお会いして、いつも感じるのですが、とても前向きですよ、一緒にいいものをつくりあげていこうという形が、今これだけの武雄市の図書館が人気になっているんじゃないかなって私は思います。こういうふうには、問題があれば、市長がいつもおっしゃって

いるように修正をかけたり、前向きに、いい形に。これからさらにいい形にしていけばいいんじゃないかなと私は思ってるんですね。大人の方々がですね、とてもテラスで、すごくいい感じで、お茶を飲みながら本を読んだり、そこでおしゃべりをしたりって——ああいう雰囲気は物すごくいいんですね。そこにですね、乳幼児のとてもかわいい椅子。そういうのが、置いてあると、とても子育て中のお母さんたちは、そこにゆっくりできる。ああ、いいんだなっていう形が見えてですね、ここに座っていいんだなって、子どもの椅子っていうか、こうありますよね、かわいいのが。そんなふうにテラスにでも座れるようなのがあったらいいと思うのと、やっぱり、初日に図書館のことで何番議員さんかはお水のことで言われましたが、やっぱり水もですね、もう今は、ペットボトルとか水筒とかみんな持ってきていますが、ましてやそこにも自販機もありますが、やっぱり熱中症対策を考えれば、相談すればCCCの方だって気持ちよくお応えしていただけるんじゃないかなってふうに思うんですね。水の対策ですね。そんなところも市長は相談をしていただけないのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、水飲み場の話は、基本的に私の判断になりますので、私から答弁したいと思います。

山口裕子議員の御質問を受けて、水飲み場については、館内設置の方向でやります。それは、夏休み、さっき熱中症という話がありましたけど、夏休み開始前に設置をします。これ、水まわり——の——例えば、どういうふうにするかという準備のための調査がありますので、ちょっと期間がちょっとかかるということはちょっと御容赦いただきたいんですが、いずれにしても設置をします。

これは、私の意思としてCCCにお願いをしたい、これは指定管理者に指示をしたいというふうに思っていますので。というふうに、これで多くの皆さんの笑顔がね——これで見られればいいと思います。御質問、ありがとうございます。

〔4番「子どもの椅子—」〕

子どもの椅子は、少なくとも、今のテラスには、無理です。これね、安全・安心の観点を考えた場合に、例えば飛び出たりとかっていうのがあって、そこはちょっと厳しいんですが、ただ外にね、例えばそこでお弁当を食べられるとか、あるいはテラスの外ですね。今、1つ置いていますが、それは暑さ対策をきちんと施したうえで、今のところ、最大2テーブル置くと。少なくとも、1テーブルは子ども達がね、これ自分たちの椅子なんだというのがわかるようにしたいと、思っていますので、これもちょっと時間がかかりますけど、せつかくの夏休み前まではね、設置をしたいというふうに思っています。

いずれにしても、もうほんとに小さい子から御年配の方々までね、自分の居場所があるん

だ、というような図書館に、ぜひ、目指して参りたいというふうに思ってますし、千円図書館っていわれないようにね、ぜひ我々はやってきたいと思ってます。

千円図書館でほんとに、武雄市図書館が、イメージがほんとに悪くなってますよ。いろんなところで言われて。これほんとに、市議会がそんなこと言っているのかなど。みんな前向きにしようとしてるのにね、言うこと自体は、僕は、しつこいって言われるかもしれませんが、僕はそれは……（「しつこいです」と呼ぶ者あり）しつこい、そうです。言われますけど、それは私は言い続ける必要はあるだろうと思ってます。やっぱりね、私をどれだけ批判するのはいいです。いいんです、誹謗中傷するのもいいです。政治家なんでいいんですけども、せっかく武雄市のシンボルとして、まちづくりのエンジンとして動き出すのをね、ほんとに心ない、僕は発言だと思います。ですので、現に多くの議員の方々は、ほとんどすべての議員の方々はそんなこと思ってもないし、言いもしないと思いますけれども、一部の議員の方にはね、ぜひそれは思っている、やっぱり言わないっていうのは日本人の美の心だと思いますので、ぜひ、それはお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり子どもたちも椅子があると、今のテラスに座っても構わないけど、やっぱりあると、とても嬉しいのではないかなと思ひまして挙げさせていただきました。1つ紹介すると、今の市長のおっしゃるようなことで、熊本のくまモンのキャラクターが、なんで、ゆるキャラがなんで、あんなふうにはやったか、というので、1つのコラムがあったんですね。それは、熊本県の関係——くまモンの関係の方がですね、くまモンを使用するときには使用料はいらぬということだったんですね、あれは。そして、規制として熊本の宣伝を入れれば、使用料はとりませんということで、あれだけいろんなものにくまモンがいろんな商品に、キャラクターとして使えるようになったんですね。普通は、いろんなのが使われるときはたくさん、使用料が高いわけですが、そういうことなんですね。

そういうふうに、このコラムの人は、やっぱりこれからは、既成観念にとらわれず、皆が喜ぶ仕組みをつくることこそ、次の時代をつくと書いていてあって、やはり、既成観念を外して、皆さんが喜ぶ仕組みってことは、この図書館だったんじゃないかなっていうふうに思うんですね。だからこれで不都合があれば……（「そうそう」と呼ぶ者あり）、どんどんいいほうにやっていけるし、市民も皆さん、いろんな意見が入ってくるけどとても楽しんで、カフェテラスにしても、いろんな利用の仕方で喜んでいらっしゃる声が私にも届けてらっしゃるのでそれをお伝えしておきます。

次、最後になりましたが、6番目のコミュニティFM局の開設について。3月に私は挙げさせていただいたら、やはりこれは、とても反響よくって、インターネットやブログとかフ

フェイスブックとか何も読めんけんが、もう、早うこういうのば、してくれたらよかねという声があがりました。そうしている時に、佐賀のえびす局も防災を強めてですね、FM局を、ということで、ラジオもそれ専用ラジオということで新聞に載っていましたが、今の状況は、市長、どのようになっていますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先に、申し上げたとおり、コミュニティFMについては、平成26年、来年の9月の開局を、ぜひ目指したいと思います。昨年9月に、実は電波の空き状況を確認するための調査、難しい言葉でいうと潜在電界調査というのがあるんですが、これを実施し、この4月には、開局準備のための人材、地域おこし協力隊——これ総務省の補助金になりますけれども、協力隊を受け入れています。永田裕美子って異才を放っている女性が、地域おこし協力隊です。異才を放っています。この間、あわせて先行事例を調査し、設立までに必要な事項を考慮して、先ほど申し上げた来年9月の開局をぜひ目指したいと思います。

一方で、財源の問題があります。年間で少なくとも3,000万以上はかかってまいりますので、この費用調達をどうするかということで——。もちろん、全部、営利でできるわけありませんので、市の一定の補助は必要なんですけど、なるべく市民負担を減らす方向で考えたいと思いますので、ぜひ、これをごらんになられている企業経営者の皆さん、あるいは病院経営者の皆さんたちはぜひ、大口のスポンサーになっていただければありがたいと思っています。そういうことにして、市民みんなで、何ていうか。行政もちろん手出しはしますけれども、市民皆さんで盛り上がっていくような、あたたかいアナログの情報、交流手段ですよ。そういうものを目指していきたいと思っています。どっちにしても、確かに議員おっしゃるとおり、やれ、フェイスブックだとか、ブログだとか言っても、ほとんどの方は知りません。本当にそうです。いまだにフェイスブックって何ねて言われます。これは笑うところじゃないんですけれども。ですので、そういうことからしてもね、FMのもつ力というのは、例えば、車の中でも聞ける。私が言うまでもないけど、車の中でも聞けるし、作業されているところでも聞ける。それと何よりも、前も言いましたけれども、これが災害対応の切り札になりますので、積極的に進めていきたい、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

えびすFMで「人と人、人と地域をつなぐ、温もりのあるメディア」という形で打ち出していますが、武雄市もこういう形で展開していただいたら、とてもいい武雄市が作り出されるんじゃないかというふうに思います。

私が期待するところは、やはり防災の中で災害情報というのは1番大きいし、あとは高齢化社会なので、お年寄りの犯罪防止とかそういう形にもラジオは活用するんじゃないかと思います。また、イベントですね。朝市の様子とか、オルレの様子。交通情報ですね。あと図書館の駐車場の様子とか。こういうのに物すごく、自分たちのFM局があれば役に立つんじゃないかっていうふうに思ってます。期待するところはいろいろ膨らんで、皆さんは、ああ、こういうのやったら、前向きで楽しい武雄市の情報が聞けるね、みたいなことになってますので、ぜひとも力をいれて、スポンサーとかの関係もあるでしょうが、来年26年に向けて、頑張っていたきたいなと思っております。

それでは私の一般質問をこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。